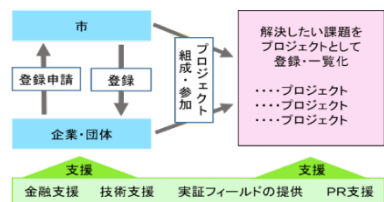


富士山とともに 輝く未来を拓くまち ふじ

自治体名：静岡県富士市（2020年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	富士山の南麓に位置する富士市は、古くから「紙のまち」として製紙産業の一大拠点を形成し、田子の浦港の築造や東名高速道路の開通などを契機に、輸送機械や化学工業、薬品等の多彩な企業が進出し、地域経済が発展してきた。しかし、1990 年から第2次産業就業者数の減少傾向が継続するなど、産業の活性化が求められている。 本市は、富士山の恵みを次代に引き継ぐとともに、地域をリードする中核的な都市として、様々な社会課題の解決に向け新たな成長力を生み出し、経済、社会、環境の三側面が調和した持続可能な未来を切り拓いていく。	2.関連するゴール	
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	富士山の豊かな恵みを享受している富士市の使命として、富士山の環境を次代に引き継ぐとともに、新素材 C N F（セルロースナノファイバー）の開発や、ユニバーサル就労、災害時のトイレ対策など、環境と産業と生活が調和した持続可能な都市を実現するため、市民、産官学金など多様な主体と連携し、地域力の結集を図り、未来を拓くイノベーションを先導していく。		

4.自治体SDGs推進等に向けた取組 【経済】「環境問題に貢献できる産業の創出と持続可能な産業基盤の構築」 【社会】「誰一人取り残さない社会の実現と防災力の向上」 【環境】「富士山の恵みの保全と環境共生社会の実現」 【特に注力する先導的取組】 富士市から、世界を変える共想・共創プラットフォーム構築イメージ 	6.取組成果 【経済】・【環境】 太陽光発電量は微増、バイオマス発電量は維持し、再生可能エネルギー発電量において非常に高い成果が得られた。 （2022年1,845,268MWh → 2023年1,850,027MWh） 【社会】・【経済】 新型コロナウイルス感染症予防をきっかけに、多様な働き方が浸透したため、在宅勤務、時差出勤等の働き方を推進する事業所の割合が堅調に推移した。 （2022年33.6% → 2023年33.1%） 【社会】 ふじBousaiに他市のトレーラーを展示したことにより、災害時のトイレの啓発に繋がった。福祉避難所用に24台の電動式簡易トイレ及び太陽光発電式の蓄電池を配備した。
5.取組推進の工夫 みんな元気になるトイレプロジェクトにおける（一社）助けあいジャパンと協働や、環境共生社会の推進における民間企業グループと包括連携協定。（官民連携） ユニバーサル就労支援センターにおいて、相談から就労支援まで切れ目のない支援を行うこととした。（ワンストップサービス化）	7.今後の展開策 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組を具体化していくため、富士市SDGsプラットフォームにおいてSDGsの達成に向けた二者以上の協働の取組をプロジェクトと定義し、優良プロジェクトを認定する制度を設けるほか、優良プロジェクトとなり得る取組について企業寄附を原資に補助する制度を創設し、市と企業が連携して取組の創出拡大を図っていく。

8.他地域への展開状況（普及効果）	第3回内閣府SDGs金融表彰を受賞した（2023年11月） 【社会】ユニバーサル就労について6団体の視察を受け入れた。（議会：草加市、江別市、塩尻市、湖南市、行政：飛騨市、静岡市） 【経済】製紙産業イノベーションシンポジウムは、富士市と同様の「紙のまち」である愛媛県四国中央市と共催で開催した。富士市CNFプラットフォームのモデル取組の発信（取組紹介：CNF展示会＆CNF活用セミナー@大阪 他、視察受け入れ：愛媛県四国中央市、豊田市議会 他）
--------------------------	---

SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

静岡県富士市

2024年9月

SDGs未来都市計画名	富士市 S D G s 未来都市計画
自治体 S D G s モデル事業 又は特に注力する先導的取組	富士山とともに 輝く未来を拓くまち ふじ —

2020年度

第 1 期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

静岡県富士市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（ 1 ） 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	市内総生産 【8.2、8.3、9.2、9.4、9.5】	2018年3月 11,689 億円	2022年 12,256 億円	2030年 12,075 億円	147%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを13,200億円に見直し更なる推進を図る予定。
2	C N Fを活用し、製品化した市内事業所数 【8.2、8.3、9.2、9.4、9.5】	2018年3月 1 社	2022年 10 社	2030年 12 社	82%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	民間から資金調達を行い実行したプロジェクトの件数 【17.17】	2020年3月 0 件	2022年 0 件	2030年 18 件	0%	クラウドファンディングを参考とした資金調達の仕組みをプロジェクト支援に取り入れ取組達成へ向け推進を図る予定。
4	S D G s の達成に向け、行動宣言をしている市民の数 【4.1、4.3、17.17】	2020年3月 0 人	2022年 1,384 人	2030年 1,000 人	138%	第2期計画策定時には未達であつたが、年度末時点で目標が達成できており、第2期計画では更なる推進を図る予定。
5	ユニバーサル就労実現者数 【1.3、8.5】	2020年3月 98 人	2022年 493 人	2030年 1,300 人	33%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
6	企業等との災害時応援協定締結数 【1.5、11.5、11.b、17.14】	2020年3月 190 団体	2022年 212 団体	2030年 220 団体	73%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
7	富士山麓ブナ林創造事業植樹累計面積 【6.3、6.6、11.4、13.2、13.3、15.2、15.4、15.a】	2020年3月 17.08 ha	2022年 20.08 ha	2030年 28.08 ha	27%	11年間で11ha増加させる計画である中、毎年1ha増加させており、2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
8	森林の創造面積 【6.3、6.6、11.4、13.2、13.3、15.2、15.4、15.a】	2020年3月 20 ha	2022年 20.35 ha	2030年 23 ha	11%	2023年度にゴルフ場を植林地として買収契約済みであるため、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
9	市内太陽光発電導入量 【7.2、7.3、12.5、13.2、13.3】	2020年3月 96,635 kw	2023年3月末 116,565 kw	2030年 121,300 kw	81%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

（ 2 ） 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	新産業を始めとした多彩な産業の振興	製造品出荷額等	2018年3月 13,816 億円	2022年 14,641 億円	2022年 15,839 億円	41%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	一人ひとりが輝ける働き方の実現	ユニバーサル就労実現者数	2020年3月 98 人	2022年 493 人	2022年 500 人	98%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	一人ひとりが輝ける働き方の実現	多様な働き方を推進する事業所の割合	2020年3月 21.9 %	2022年 34 %	2022年 35 %	89%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	持続可能な社会の創り手・担い手を育む	コミュニティ・スクール設置校	2020年3月 10 校	2022年 28 校	2022年 32 校	82%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
5	災害に強い安全・安心なまち	自主防災組織の訓練の実施状況（実施率）	2020年3月 72.6 %	2022年 78.7 %	2022年 73.7 %	555%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを93.2%に見直し更なる推進を図る予定。
6	富士山及び駿河湾の自然環境の保全	民有林の間伐施業面積	2020年3月 7,468 ha	2022年 8,155 ha	2022年 8,007 ha	127%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを8,404haに見直し更なる推進を図る予定。
7	環境共生社会の推進	市内における再生可能エネルギー発電量（推計）	2018年度 993,317 MWh	2023年3月末 1,845,268 MWh	2022年度 1,100,000 MWh	799%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを1,304,000MWhに見直し更なる推進を図る予定。
8	環境共生社会の推進	公共施設からのエネルギー起源CO2排出量増減率（2013 年比）	2020年3月 5.8 %増加	2022年 -31.3 %増加	2022年 -9.4 %増加	244%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを34%減少に見直し更なる推進を図る予定。
9	環境活動・環境教育の推進	こどもエコクラブ加入率	2020年3月 5.4 %	2022年 6.8 %	2022年 6.3 %	156%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを7.0%に見直し更なる推進を図る予定。

（ 3 ） 第 1 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容 （ 1 ） 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況 指標 1：市内総生産は、（ 2 ）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況 指標 1：製造品出荷額ともに、コロナ禍の中、目標達成に向けて順調に進捗した。 指標 3：民間から資金調達を行い実行したプロジェクトの件数は、第 1 期計画期間中の実績はなかったが、令和 5 年度（2023年度）から始めるクラウドファンディング型の補助制度により、企業寄附を原資として民間プロジェクトを支援する仕組みを構築し、第 2 期計画期間中の実績向上を図る。 指標 8：森林の創造面積については、「富士市富士・愛鷹山麓地域の森林機能の保全に関する条例」に基づく対応により、地域内における重度開発を最小限に抑えることができた。 ●成果 経済・社会・環境の三側面から各指標について概ね目標を達成している。 ●課題 一旦達成した目標であっても、コロナ禍等の外的要因で、近年数値が減少した K P I もあり、取組の推進が重要。 ●今後の展望 目標達成した指標において、次期計画で高い目標を掲げ、引き続き計画の進捗を図る。富士市 S D G s 共想・共創プラットフォームに参加した企業、団体等に働きかけ、各指標の目標達成に向けた取組推進を図る。

（ 4 ） 有識者からの取組に対する評価

・環境問題に貢献できる産業の創出、ユニバーサル就労、複数のステークホルダー協働の取組をプロジェクトと定義など、三側面の統合を意識した行政のリーダーシップが見られる。さらなる進展を期待する。
--